

# 1 ハザードマップの活用

ハザードマップを活用した、洪水・土砂災害への備えについて考えましょう。

災害への備えとして、普段から準備が必要です。災害の時、あわてないために家庭や地域、学校などでハザードマップを活用し避難準備や避難行動の訓練をしましょう。

**Check 1** あなたの家の位置を探して、周辺の浸水深や危険個所の状況を確認し、安全かどうか確かめましょう。  
(あなたの家に印をつけましょう)

- あなたの家はどこですか？

**Check 2** あなたの避難場所と避難経路を検討しましょう。

- あなたの家から避難しやすい避難場所はどこですか？
- その選択した避難場所までの距離はどのくらいですか？  
(地図下部に距離の目安を示しています。)
- あなたの家から選択した避難場所までのもっとも安全な経路はどこですか？
- その他の避難経路の候補はありますか？

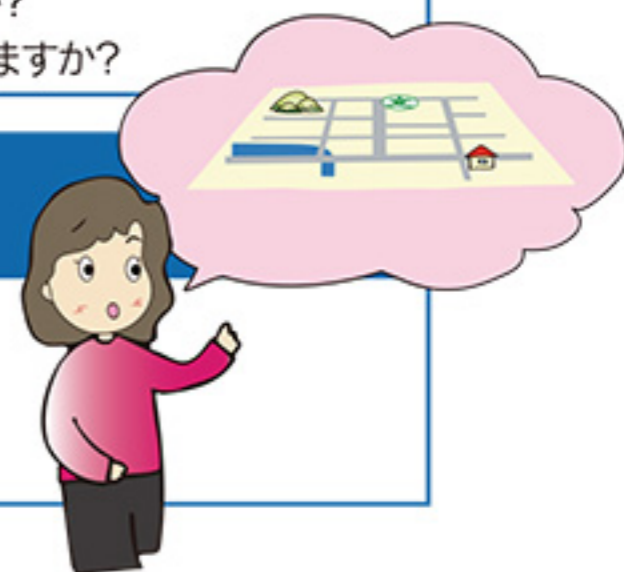


**Check 3** あなたが地図上で選択した避難経路を実際に歩いて安全かどうか確認しましょう。  
(その他の避難経路も確認しましょう。)

- 避難経路の近くに川や大きな水路がありませんか？
- 避難経路上は、どのくらいの水深になりますか？
- 避難経路の近くにマンホール、道路の端の溝・樹、深く窪んだ場所などありませんか？
- 避難経路に沿って、土砂崩れがおきそうな崖はありませんか？
- 避難経路に沿って、大雨になると勢いよく水が流れたり溢れたりするような水路はありませんか？
- 避難経路の近くに、浸水しても確認できる、看板や信号など、高い位置に目印になるものはありますか？

**Check 4** あなたの家の避難地図をつくりましょう。

- Check3で歩いて確認した結果から、一番安全と予想される避難経路はどれですか？
- 別の避難経路はありますか？



## 避難勧告・指示等の区分

緊急の度合い

避難指示の種類	発令時の状況	住民等に必要な行動
<b>1 避難準備情報</b>	・要援護者、特に避難行動に時間を要するものが避難しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった場合。	・要援護者、特に避難行動に時間を要する者は、計画された避難場所へ避難を開始する。 ・上記以外の者は、家族等との連絡、非常用持出品の用意等、避難準備を開始する。
<b>2 避難勧告</b>	・通常の避難行動ができる者が避難行動を開始する段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況の場合	・通常の避難行動ができる者は、避難場所等への避難行動を開始する。
<b>3 避難指示</b>	・前兆現象の発生や、切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況の場合。 ・堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された場合 ・人的被害の発生した状況の場合	・避難勧告等の発令後で避難中の住民は、確実な避難行動を直ちに完了する。 ・未だ避難していない対象住民は、直ちに避難行動に移るとともに、その時間がないときは生命を守る最低限の行動をとる。

★自然現象のため、不測の事態も想定されます。計画された避難場所等への避難が必ず適切ではない場合は、自宅や近隣建物の2階などに避難する場合があります。